

新しい年が始まりました。今年の十二支「子」にちなんで今回はネズミの話です。

私にとって、ネズミといえばアカネズミです。アカネズミは、北海道から九州まで日本のほぼ全域に分布する固有種で、河川敷から奥山まで様々な環境に生息する森林性の野ネズミです。夜行性のため昼間に会う機会は少ないのですが、数年前の秋、一度だけじっくり観察できる機会がありました。それは偶然、アカネズミの巣穴近くにいた時のこと。巣穴からアカネズミが顔を出し、私の気配を感じて一度は巣に戻ったのですが、じっと動かずにいると再び顔を出してしばらく様子を伺った後、何かを探し始めました。どうやら落ちていた木の実が目当てだったようです。アカネズミは名前の通り、赤褐色の毛をした大きな目と耳が可愛い生き物です。秋のアカネズミは、多くの野生動物同様、冬を生き残るためにせわしく食物を探し、食べ、蓄えています。年間を通して植物の種子や果実、根茎、実生、昆虫などを食べますが、秋以降はどんぐりが主な食物となります。どんぐりの実り具合に同調してアカネズミの個体数が変動するといわれていることから、どんぐりはアカネズミ



の大好物だと思いがちですが、実はどんぐりにはタンニンが大量に含まれていて、食べ慣れないと中毒を起こしてしまうそうです。少しずつ食べてタンニンを無毒化できるようにしながら利用しているそうです。「蓄える」という無意識の種まきが森林の世代交代を助けるとともに、多様な生き物に捕食されることで、森林生態系を維持する役割も担っているアカネズミ。森でアカネズミの食痕に出会う時、小さな生き物の重みを感じるのには私だけでしょうか。ちなみに「干支」は「庚子^{かのえね}」です。植物の生長に例えると、「庚^{かのえ}」は植物の生長が止まって新たな形に変化しようとする状態を表し、「子」は固い種に押し込められていた生命が新たに芽生えて色々な方向に育ち始める状態を表すという説があります。本市の自然にとっても芽吹き多い年となりますように…。(加瀬澤)